

ASEAN国境を超える犯罪に関する閣僚会議(AMMTC) 「スキヤムデミック」防止への連携・協力が問われる

東南アジア諸国連合(ASEAN)加盟各国で警察機構や治安機関を所管する内相や公安相らが集合する年次「ASEAN国境を超える犯罪に関する閣僚会議」の第17回会合(17th AMMTC)・関連会合が8月20日-24日にインドネシアを議長国として開催される。東南アジア地域では、2020年初めからの新型コロナウイルス感染のパンデミックに伴い、詐欺を意味する英語「スキヤム(scam)」と「パンデミック(pandemic)」を合成した、「スキヤムデミック(scamdemic)」という各種のオンライン詐欺を中核とする複合的な越境犯罪が急激に拡大している。同会合では、従来のテロ、麻薬犯罪、武器密輸、海賊、資金洗浄などに加え、そうした「スキヤムデミック」の防止に向けて加盟国間での連携した対応が問われることになる。

〔「ASEAN国境を超える犯罪に関する閣僚会議」の各国代表〕
《インドネシア》

■インドネシア国家警察(POLRI)長官 Chief of the Indonesian National Police
リストイオ・シギ・プラボウォ警察大将 Pol. Gen. Listyo Sigit Prabowo



インドネシアでは、国家警察長官は閣僚待遇であり、「ASEAN国境を超える犯罪に関する閣僚会議」の第17回会合(17th AMMTC)・関連会合では同国を代表して議長を務めるとみられる。

＊2021年1月に警察官・警察職員57万人(当時)を指揮する現職(第25代国家警察長官)に国家警察刑事局長から昇格。就任時の年齢は51歳8カ月で、インドネシア警察史上で最年少の長官となった。また、カトリック教徒であり、警察長官にキリスト教徒が就任するのは同国史上で2人目。

▼データ：【年齢】54歳(1969年5月5日生まれ)【生地】マルク州アンボン【宗教】キリスト教(カトリック)【学歴】1991年警察士官学校卒、2006年警察指揮幕僚大学上級幹部学校(SESPIM)修了、17年国家防衛研修所(LEMHANNAS)修了【経歴】1991年国家警察入庁：(旧・西ジャワ州)タンゲラン市警察勤務を最初に、ジャカルタ首都圏警察などで要職を歴任。2009年中ジャワ州パティ警察署長、10年同州スコハルジョ警察署長。11年同州ソロ(スラカルタ)市警察本部長。12年国家警察(本庁)刑事局(Bareskrim)捜査第2部長。13年南東スラウェシ州警察刑事部長。14年(ジョコウィ)大統領補佐官。16年バンテン州警察本部長。18年本庁警務・保安部長。19年本庁刑事局長。2021年1月27日国家警察長官(一現職)【家族】ジュリアティ(Julianti Saptia Dewi Magdalena)、通称ダイアナ夫人との間に2男1女。

《マレーシア》

■内相 Minister of Home Affairs

サイフディン・ナスシオン・イスマイル Saifuddin Nasution Ismail



マレーシア王立警察(PDRM：連邦警察)を所管する内務省のトップとして、AMMTCへの同国代表を務める。

＊アンワル・イブラヒム首相(連立与党「国民正義党(PKR)」総裁)の最側近で現PKR書記長。与党連合「希望連盟(PH)」の事務局長を兼任。

＊下院議員選挙には1999年から6回立候補して2勝4敗。直近の2022年11月総選挙でも落選したため、上院議員に任命された上で要職である現職(内相)に起用された。

＊2018年7月に成立した(第2次)マハティール政権で国内取引・協同組合・消費者相を務めたことがある。

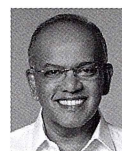
▼データ：【年齢】59歳(1963年12月7日生まれ)【生地】(旧マレーシア)シンガポール【政党】希望連盟(PH)：事務局長/人民正義党(PKR)：書記長【学歴】マレーシア・プトラ大学卒(農学)【経歴】実業家：不動産会社「BMRエ

ステート」マネジャー。2000年11月補欠選挙でクダ州議会議員(一04年3月)。08年3月総選挙で下院議員に初当選(PKR)。13年5月総選挙(下院議員選)で落選。18年5月総選挙で下院議員に返り咲き(クダ州クリム・バンダル・ルンパル選挙区)、同7月(マハティール内閣)国内取引・協同組合・消費者相(一20年2月)。22年11月総選挙(下院議員選)で落選、12月3日上院議員に任命、同日(アンワル内閣)内相(一現職)【党歴】2010年PKR書記長(一現職)。20年3月PH事務局長(一現職)【家族】ノルハヤティ(Norhayati Musa)夫人。

《シンガポール》

■内相兼法相 Minister for Home Affairs & Minister for Law

K・シャンムガム K. Shanmugam



＊リー・シェンロン首相の厚い信頼を得て、実質的な「国内治安相」である内相を(第二内相時代を含めて)通算で約11年にわたって務めている。シンガポール最高裁から「上席弁護士(SC)」の称号を与えられた著名な法廷弁護士。単一与党「人民行動党(PAP)」の中央執行委員(財務部長)。国会議員8期目。愛称は「シャン(Shan)」。

＊17th AMMTCには、第2内相を兼任するジョセフィン・テオ(Josephine Teo)情報通信相、またはムハマド・ファイサル・イブラヒム(Assoc Prof Dr Muhammad Faishal Ibrahim)国務相(内務・国家開発担当)が同(シャンムガム)氏の代理として出席することも予想される。

▼データ：【年齢】64歳(1959年3月26日生まれ)【政党】人民行動党(PAP)：中央執行委員(財務部長)【人種】インド(タミール)系【学歴】シンガポール国立大学(NUS)法学部卒【経歴】弁護士：1985年弁護士登録(開業)。88年国会議員に初当選。91年Allen & Gledhill法律事務所シニアパートナー。98年最高裁判所首席弁護士。2002年インド人開発協会(SINDA)会長。08年5月第2次リー・シェンロン政権改造内閣で法相兼第二内相として初入閣。10年11月内相兼法相。11年5月外相兼法相。15年10月内相兼法相(2度目)。20年7月10日総選挙で国会議員に8選(ニースーン集団選挙区：一現職、同25日第5次リー政権で内相兼法相に再任(一現職)【家族】シータ(Seetha)夫人と再婚。前妻との間に2子。

《ブルネイ》

■首相府相兼第二国防相

Minister at the Prime Minister's Office & Minister of Defence II

ハルビ・モハマド・ユソフ(退役少将) Maj. Gen.(Ret.) Halbi Mohd Yusof



王立ブルネイ警察(RBPF)は首相府の所管下にあり、同(ハルビ)氏が首相府相の立場からAMMTCへのブルネイ政府代表を務める。

＊ボルネア国王が2018年1月に実施した内閣改造で文化・青年・スポーツ相から第二国防相に異動。22年6月の首相府

相への昇格を経て、今年2月の人事で首相府相兼第二国防相に就任した。

▼データ：【年齢】67歳(1956年6月22日生まれ)【生地】ブルネイ・ムアラ地区キラナス郡【学歴】1977年英国サンドハースト王立陸軍士官学校卒、2000年英国王立国防大学(RCDS：ロンドン)で修士号(国際政治学)取得【経歴】ブルネイ王国軍(RBAF)に入隊(少尉に任官)：RBAF司令官補佐官、ブルネイ陸軍(RBLF)第2大隊長、RBAF司令部作戦・企画本部1級参謀(作戦担当)、国防大臣官房戦略企画部長代行などを歴任。2001年2月陸軍(RBLF)司令官を経て、03年3月ブルネイ王国軍(RBAF)司令官に就任。09年12月RBAFを定年退役。10年5月副内相として入閣。15年10月文化・青年・スポーツ相。18年1月30日第二国防相。22年6月7日首相府相。23年2月27日首相府相兼第二国防相(一現職)。

《フィリピン》

■内務自治相 Secretary of the Interior and Local Government

ベンハミン・アバロス Benjamin de Castro Abalos Jr.



マルコス大統領の側近の一人で、昨年5月の大統領選挙では、マルコス候補(当時の選挙対策本部長を務めた。元下院議員(通算6期18年間)。元(マニラ首都圏)マンダロン市長。ドゥテルテ前大統領が議長を務める政党「PDPラバン」に所属。愛称「ベンフル(Benhur Abalos)。

▼データ：【年齢】61歳(1962年7月19日生まれ)【生地】リサール州マンダロン(現マニラ首都圏マンダロン市)【政党】PDPラバン(PDP-Laban)【学歴】1982年デラサール大学(マニラ)卒(文学士：歴史学・政治学)、87年同大学で法学士号(LL.B)取得後、フィリピン法廷弁護士資格取得【経歴】弁護士・政治家：1995年マンダロン市議会議員。98年マンダロン市長に初当選(以後、連続3期)。2004年下院議員(同市選挙区)に「転出」。07年マンダロン市長に復帰(以後、連続3期)(-16年)。21年1月(ドゥテルテ政権)マニラ首都圏開発庁(MMDA)長官。22年2月マルコス大統領候補選挙対策本部長、同6月30日(マルコス政権)内務自治相(一現職)【家族】カルメリタ(Carmelita Aguilar)夫人(現マンダロン市長)との間に1男5女(娘1人は19歳の時に大腸菌感染症で死去)。

《ベトナム》

■公安相 Minister of Public Security

トー・ラム To Lam

2016年4月の第14期政府発足時から現職(公安相)。公安省内の要職を歴任してきた同省「プロパー」の閣僚。人民公安軍大将。

▼データ：【年齢】66歳(1957年7月10日生まれ)【生地】紅河デルタ地方・フイエン省バンザン県【政党】ベトナム共産党(CPV)：政治局員(序列8位)【軍歴】(人民公安軍)大将(現役)【学歴】人民警察学院卒、人民公安大学法学博士(教授称号)【経歴】公安省職員：同省政治防護局局長、同省安全総局副局長(少将)、同省第一安全総局長(中将)などを歴任後、2010年公安省次官(上将)。16年4月9日(第14期政府)公安相、同7月31日中部高原運営委員会委員長(一現職)。19年1月29日人民公安軍大将に昇進(一現役)。21年7月28日(第15期政府)公安相に再任(一現職)【党職】2010年8月党中央委員(一現職)。16年1月党政治局員(一現職)、同5月党中央公安委員会書記(一現職)。

《カンボジア》

■副首相兼内相 Deputy Prime Minister & Minister of Interior

サル・ケン Sar Kheng

1993年の新生カンボジア王国成立以前から(共同内相時代も含め)副首相兼内相を通算30年間務めており、ASEAN加盟10カ国中では「最古参」の内相。与党「カンボジア人民党(CPP)」常任委員会(「政治局」に相当)の副議長(副党首)で、組織上はフン・セン現政権のナンバー・ツー。国家警察を所管。

▼データ：【年齢】73歳(1950年1月15日生まれ)【生地】プレイヴェーン州カムチャイミア郡【政党】カンボジア人民党(CPP)：副党首【学歴】1992

年プノンペン大学修士課程修了(政治学)、2002年ロシア自然科学アカデミー会員【経歴】1970年反ロン・ノル政権闘争(王国民族連合政府)に参加。75年ポル・ポト政権(民主カンブチア)成立後、カンボジア共産党(PCK)北東地区専従書記。78年(反ポル・ポト勢力)カンボジア救国民族統一戦線(UFNSK)に参加し、83年カンボジア人民革命党(KPRP：CPPの母体政党)中央委事務局長。92年プノンペン政府閣僚評議会副議長(副首相)兼内相。93年5月制憲議会選挙で国会議員(現下院議員)に当選(以後、現在まで連続当選)、同10月(カンボジア王国政府)副首相兼共同内相。2006年3月(共同大臣制廃止に伴い)副首相兼内相。2018年9月6日(第5次フン・セン政権)副首相兼内相(再任：一現職)【家族】ニム・サカン(Nhem Sakhan)夫人との間に2男1女。

《ラオス》

■副首相兼公安相 Deputy Prime Minister & Minister of Public Security

ウィライ・ラーカムフォン(大将) Gen Vilay Lakhmfon



2018年12月から公安相、2022年6月に現職(副首相兼公安相)。ラオス人民革命党(LPRP)政治局員(序列10位)。現党指導部は治安対策を重視しており、同(ウィライ)氏の職責は極めて重い。

*ラオス史上で4人目、公安部門では初のラオス人民軍大将(他の3人はカムタイ元国家主席、シーサワット元首相、チャンサモン現副首相兼国防相)。

▼データ：【経歴】ラオス人民軍の各部局・部隊の要職を歴任後に軍政治総局長兼副国防相。2016年1月ラオス人民革命党(LPRP)書記局員(-21年1月)。18年12月5日(第8期政府の内閣改造)公安相に就任。21年1月(党第11回大会)政治局員に選出。同3月22日(第9期政府)公安相に再任(一現職)。同11月大将に昇進。22年6月20日副首相(兼任)に昇格(一現職)。

《ミャンマー》

■副首相兼内相 Deputy Prime Minister & Minister for Home Affairs

ソー・トゥット(中将) Lt-Gen Soe Htut

ミャンマー軍事政権の代表は首脳会議や外相会議などASEANの主要な会議への参加は拒否されているが、外交・政治問題抜きに越境犯罪防止に向けた連携を話し合うAMMTCには同国代表が出席している。但し、昨年の16th AMMTC(オンライン形式)には同(ソー・トゥット)氏ではなく、ジン・ミン・テツ(Maj-Gen Zin Min Htet)副内相兼ミャンマー警察(MPF)長官(少将)が出席した。

*国軍のクーデターで現軍事政権が発足した直後の2021年2月10日に内相に任命され、今年2月1日に副首相(兼任)に昇格した。「国民民主連盟(NLD)」主導のウィン・ミン前政権でも内相を務めている。元国軍保安局長。ミン・アウン・フライン国軍司令官の側近で、同司令官の外遊や国内視察には常に同行している。

▼データ：63歳(1960年3月29日生まれ)【生地】(旧・ビルマ連邦)マンダレー管区【軍歴】陸軍中将(現役)【学歴】陸軍幹部候補生学校(OTS)を首席で卒業(64期生：理学士)、同修士(防衛研究)【経歴】陸軍各部門・部隊の参謀や隊長を経て、第101軽歩兵師団(パコック)師団長、第88軽歩兵師団(マグウェ)師団長を歴任。2010年7月から東中部軍管区司令官、中部軍管区(マンダレー)司令官(少将)を務める。16年一旦は国軍法務総監(中将)に任命されたが、短期日で国軍保安局長に異動。20年2月10日(ウィン・ミン政権)内相。21年2月1日(ミン・アウン・フライン軍事政権)内相。23年2月1日副首相兼内相(一現職)【家族】ニラ・セイン(Nila Sein)夫人との間に3男。

《タイ》

AMMTC各国代表のタイのカウンターパートは、(新政権発足までは)プラユット現暫定内閣のアヌポン・パオチンダ内相(元陸軍司令官：Gen Anupong Paochinda)だが、17th AMMTCで誰が同国代表を務めるかは本稿執筆時点(7月21日)では不明。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)